



2012年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2011年10月
大阪ガス株式会社

1. 12.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

Design Your Energy 夢ある明日を

 OSAKA GAS

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2012年3月期 第2四半期決算と通期見通しについて、ご説明させていただきます。

12.3期第2四半期決算のポイント

■ 概況

連結売上高

工業用を中心にガス販売量が増加したことや、LNG価格の上昇に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したこと等から、**前年比3.2%増収の5,596億円**。

連結営業利益

LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことから、**前年比47.3%減益の188億円**。**時期ずれ差損が283億円発生**(前年同期時期ずれ差損69億円)。

■ ガス販売量

家庭用

気温・水温が前年より低く推移したこと等から、**前年比0.4%増加の853百万m³**。

業務用

お客さま設備の稼働増加や新規需要開発等により、**前年比1.6%増加の2,939百万m³**。

■ その他

新規事業拡大投資

カナダ・シェールガス開発プロジェクトや、LNG船への投資等を意思決定。今上半期の投資実行額は計251億円。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

2012年3月期 第2四半期は、増収・減益の決算となりました。

連結売上高は、工業用を中心にガス販売量が増加したことや、LNG価格の上昇に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したことなどから、前年と比べて3.2%増収の5,596億円となりました。

連結営業利益は、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことから、前年と比べて47.3%減益の188億円となりました。なお、原料費調整制度による時期ずれ差損は283億円発生しており、前年と比べて差損が大きく拡大しました。

ガス販売量について、家庭用では、気温・水温が前年より低く推移したことなどから、前年を0.4%上回る8億5,300万m³となりました。

業務用は、お客さま設備の稼働増加や新規需要開発などにより、前年を1.6%上回る29億3,900万m³となりました。

新規事業拡大投資については、カナダ・シェールガス開発プロジェクトやLNG船への投資などを意思決定しました。この上半期の投資実行額は251億円となりました。

12.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 12.3期2Q	B. 11.3期2Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,021	6,990	+30	+0.4%
	新設工事件数(千件)	32	33	-1	-4.3%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	24.5	24.4	+0.0	+0.2%
	家庭用	853	850	+3	+0.4%
	商・公・医療用	809	845	-36	-4.2%
	工業用	2,129	2,047	+82	+4.0%
	業務用計	2,939	2,892	+46	+1.6%
	他ガス事業者向け	233	231	+2	+0.7%
	(うち大口供給)	(2,510)	(2,448)	(+62)	(+2.5%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	4,024	3,973	+51	+1.3%
連結ガス販売量	4,041	3,991	+50	+1.3%	

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

4

2012年3月期 第2四半期のガス販売実績について、ご説明します。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を1.3%上回る40億2,400万m³となりました。

家庭用は、先ほどご説明しました通り、気温・水温の影響により、前年を0.4%上回る8億5,300万m³となりました。

商業用・公用・医療用は、気温の影響や、節電対応と見られるお客さまの省エネルギー推進の影響などにより、前年を4.2%下回る8億900万m³となりました。

工業用は、金属やガラスなどの業種を中心に、震災影響と見られるお客さま設備の稼働の増加があったほか、節電対応と見られるコージェネレーションの稼働の増加や、新規需要開発などにより、前年を4.0%上回る21億2,900万m³となりました。

ご参考資料として、19ページに、ガス販売量の月別の推移を示しておりますので、あわせてご覧下さい。

東日本大震災と、その後の電力不足問題は、用途・業種により、プラス・マイナス両面で、ガス販売量に影響が現れています。

12.3期第2四半期実績 I

()内は連単倍率
備考

連結:億円	A. 12.3期2Q	B. 11.3期2Q	A-B	A-B/B(%)	
売上高	(1.26) 5,596	(1.31) 5,421	+174	+3.2%	ガス販売量の増加、 ガス販売価格の上昇等
営業利益	(5.98) 188	(1.80) 358	-169	-47.3%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(2.82) 194	(1.64) 346	-152	-43.9%	持分法投資利益の増加等
四半期純利益	(2.12) 110	(1.41) 190	-79	-41.8%	
SVA	-56	35	-91	---	

		A. 12.3期2Q	B. 11.3期2Q	A-B
連結ガス販売量	百万m ³	4,041	3,991	+50
時期ずれ差損益	億円	-283	-69	-213
原油価格	\$/bbl	113.9	78.9	+35.1
為替レート	円/\$	79.8	88.9	-9.1
連結子会社数		131	130	+1

11.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC Design Your Energy 夢ある明日を

5

 OSAKA GAS

2012年3月期 第2四半期の決算数値をお示しします。

売上高は、前年と比べて174億円増加の5,596億円になりました。

下の表にありますように、原油価格がバレルあたり約35ドル上昇したことから、時期ずれ差損が、前年と比べて213億円拡大しており、これによって、営業利益は、前年と比べて169億円減少の188億円に、経常利益は、前年と比べて152億円減少の194億円になりました。

東日本大震災と、その後の電力不足問題は、ガス販売量で影響が見られたものの、収支上の大きな影響はありませんでした。

12.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 12.3期 2Q末	11.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	14,294	13,914	14,372	-78	
自己資本	6,649	6,600	6,649	-0	
有利子負債	5,570	5,246	5,324	+245	借入金・CPの増加
在籍人員	19,939	19,785	19,684	+255	
自己資本比率	46.5%	47.4%	46.3%	+0.2	
D/E比率	0.84	0.79	0.80	+0.04	
	A. 12.3期2Q	B. 11.3期2Q	A-B	備考	
設備投資	331	312	+19	姫路岡山ラインの建設等	
減価償却費	464	479	-14		
フリーキャッシュフロー	-125	-113	-11		
ROA	0.8%	1.3%	-0.6		
ROE	1.7%	2.9%	-1.2		
EPS (円/株)	5.3	8.8	-3.5		
BPS (円/株)	319.3	307.3	+12.0		

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

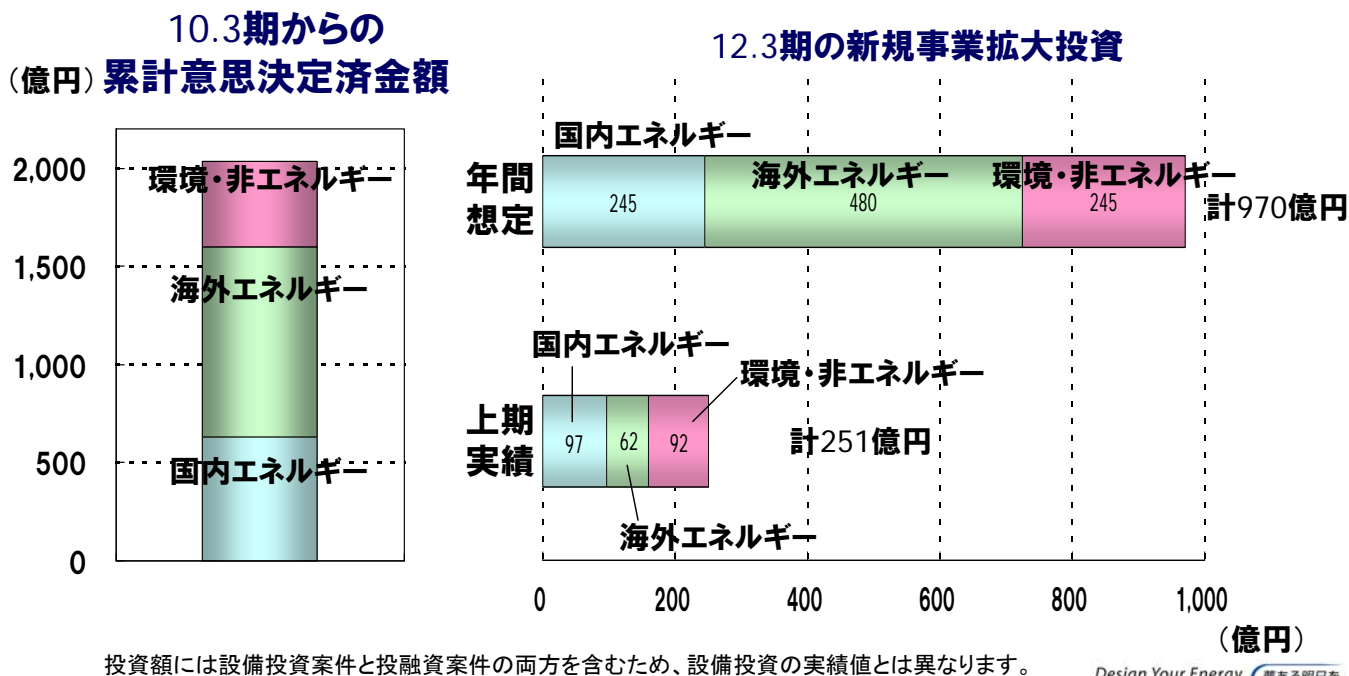
こちらでは、資産・負債項目や、主な財務指標の実績を、ご確認下さい。

設備投資は、姫路岡山ラインの建設が本格化したことなどから、前年を19億円上回る331億円となりました。

時期ずれ差損の拡大により減益となったことから、ROA・ROEは、前年を下回り、それぞれ0.8%、1.7%となっています。

12.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- カナダ・シェールガス開発プロジェクトやLNG船への投資を意思決定。
- 10.3期からの累計意思決定済金額は**2,035億円**(10.3期～14.3期計画額の51%)。



投資計画の進捗について、ご説明します。

先にご説明しました通り、新たにカナダ・シェールガス開発プロジェクトやLNG船への投資を意思決定しました。2010年3月期からの累計意思決定金額は2,035億円となっており、これは、2014年3月期までの5ヶ年投資計画額の51%に相当しています。5ヶ年の投資計画の、ちょうど真ん中で、半分の意思決定ができていることから、投資は順調に進捗していると考えています。

12.3期見通し 修正のポイント

		今回見通し	当初見通し	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格 \$/bbl	110	100	+10	10月は\$107/bbl
	為替レート 円/\$	80	85	-5	10月は77円/\$
個別ガス 販売量 (45MJ/m ³)	家庭用	(1,389)	(1,389)	(0)	下期は 当初見通しの通り
	業務用 その他	2,242	2,237	+4	
収支 (億円)		(3,201)	(3,089)	(+112)	上期実績を踏まえた 上ぶれを織り込み
		6,372	6,211	+162	
	売上	12,910	12,670	+240	
	ガス粗利	3,224	3,319	-95	下期の前提諸元を変更
	営雑附帯利益	246	206	+40	電力利益増加等
	労務費・諸経費・ 減価償却費	3,110	3,095	+15	
	連結子会社利益	350	310	+40	ケミカル事業利益増加等
営業利益	710	740	-30		
経常利益	700	700	0		

(注)ガス販売量の上段()内は、12.3期下期の数値(内数)。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

続いて、今回修正を行いました、2012年3月期通期の見通しについて、ご説明します。

まず、下期の前提諸元について、原油価格を当初見通しの1バレル100ドルから1バレル110ドルとし、為替レートを当初見通しの1ドル85円から、1ドル80円に変更します。

ガス販売量は、下期の家庭用を当初見通しの通りとする一方で、業務用その他では、上期に当初見通しを上回ったことを踏まえて、下期も1億1,200万m³上回ると想定しています。

売上については、前提諸元を変更したことに伴い、ガス販売単価が上昇し、ガス売上高が増加することなどから、当初見通しを240億円上回ると想定しています。

営業利益については、電力事業を中心とした営雑・附帯事業利益の増加や、連結子会社利益の増加があるものの、ガス粗利益の減少や、労務費・諸経費などの増加により、当初見通しを30億円下回ると想定しています。

なお、経常利益については、当初見通しを据え置きとしています。

12.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 12.3期 見通し	B. 11.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,039	7,012	+27	+0.4%
	新設工事件数(千件)	79	79	-0	-0.2%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.2	32.7	-0.5	-1.6%
	家庭用	2,242	2,275	-34	-1.5%
	商・公・医療用	1,553	1,624	-71	-4.4%
	工業用	4,330	4,141	+190	+4.6%
	業務用計	5,883	5,765	+119	+2.1%
	他ガス事業者向け	489	488	+1	+0.3%
	(うち大口供給)	(5,037)	(4,874)	(+163)	(+3.3%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,614	8,528	+86	+1.0%
連結ガス販売量	8,646	8,560	+86	+1.0%	

通期のガス販売量の見通しを、前年と比較して整理しますと、ご覧の通りとなります。

家庭用は、前年を1.5%下回る22億4,200万m³、
 商業用・公用・医療用は、前年を4.4%下回る15億5,300万m³、
 工業用は、前年を4.6%上回る43億3,000万m³で、
 大阪ガス個別のガス販売量は合計で、前年を1.0%上回る86億1,400万m³となる見通しです。

12.3期見通し I

連結:億円	()内は連単倍率				
	A. 12.3期 見通し	B. 11.3期 実績	A-B	A-B/B (%)	
売上高	(1.26) 12,910	(1.29) 11,871	+1,038	+8.7%	
営業利益	(1.97) 710	(1.68) 885	-175	-19.9%	
経常利益	(1.73) 700	(1.49) 823	-123	-15.0%	
当期純利益	(1.58) 435	(1.33) 459	-24	-5.4%	
SVA	100	132	-32	-24.2%	
連結ガス販売量	百万m ³	8,646	8,560	+86	
時期ずれ差損益	億円	-277	-85	-192	
原油価格	\$/bbl	111.7	84.1	+27.6	
為替レート	円/\$	79.7	85.7	-6.1	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

10

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

通期の収支見通しを、前年と比較して整理しましたが、こちらです。

売上高は、前年を8.7%上回る1兆2,910億円、利益については、時期ずれ差損が192億円拡大する影響が大きく、営業利益が、前年を19.9%下回る710億円、経常利益が、前年を15%下回る700億円となる見通しです。

12.3期見通し II

連結:億円	A. 12.3末見通し	B. 11.3末実績	A-B
総資産	15,192	14,372	+819
自己資本	6,936	6,649	+286
有利子負債	5,718	5,324	+393
在籍人員	19,830	19,684	+146
自己資本比率	45.7%	46.3%	-0.6
D/E比率	0.82	0.80	+0.02
	A. 12.3期見通し	B. 11.3期実績	A-B
設備投資	908	696	+212
減価償却費	968	975	-7
フリーキャッシュフロー	708	727	-19
ROA	2.9%	3.1%	-0.3
ROE	6.2%	6.9%	-0.7
EPS (円/株)	20.9	21.6	-0.7
BPS (円/株)	333.1	319.3	+13.8

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

通期のROA・ROEは、それぞれ前年を下回る、2.9%、6.2%となる見通しです。

カナダ・シェールガス開発プロジェクトへの参画

- カナダ・ブリティッシュコロンビア州のコルドバ堆積盆地におけるシェールガス開発プロジェクトに、コンソーシアム(*)を編成し共同参画することを決定。
- プロジェクトの50%権益を保有するCordova Gas Resources社に、7.5%出資。
- 埋蔵量:1~1.6億トン(LNG換算)、生産量:350万トン/年(LNG換算)
- シェールガス開発の動向に関する知見を得るとともに、将来的に、シェールガスをLNGとして、日本へ輸入する可能性についても検討を進める。



(*) コンソーシアム...三菱商事株式会社、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)、中部電力株式会社、東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社の5社で編成

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

最後に、2012年度3月期上半期に発表した、いくつかの案件についてご説明させていただきます。

当社は、三菱商事・JOGMEC・中部電力・東京ガスと共同で、カナダ ブリティッシュ・コロンビア州のコルドバ堆積盆地におけるシェールガス開発プロジェクトを推進することを決定しました。

当社は、プロジェクトの50%の権益を保有するCordova Gas Resources社に、7.5%出資します。

埋蔵量は、LNG換算で1から1.6億トン、生産量は、2014年頃に、LNG換算で年間350万トンに達する見通しです。現在、既に、生産は開始されており、生産されたガスは、三菱商事が出資するマーケティング会社などを通じて、北米市場で販売されています。

今回の参画により、近年注目を集めているシェールガスの開発動向に関する知見を得るとともに、将来的に、シェールガスをLNGとして、日本へ輸入する可能性についても検討を進める予定です。

LNG船の建造

- **新規LNG船2隻の建造を決定。**
- **主に、新規LNG契約の自社向け輸送に使用する予定。**
- **就航予定：**
2014年9月および2015年4月
- **積載容量：153,000m³**
- **建造造船所：三菱重工業株式会社**
- **船舶管理：株式会社商船三井**



外観イメージ

当社は、新規にLNG船2隻を建造することを決定しました。積載容量は、いずれも15万3,000立方メートルとし、主に、新規LNG契約の自社向け輸送に使用する予定です。

就航は、2014年9月と2015年4月を予定しており、これにより、既存の6隻とあわせて、当社のLNG船団は8隻となります。

自社船を用いることにより、経済的で、柔軟かつ安定的な原料の調達を実現するとともに、今後は、自社船を活用したLNGトレーディング事業の拡大も図っていきたいと考えています。

以上で、2012年3月期 第2四半期決算と通期の見通しについてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料

12.3期第2四半期の売上高差異(対11.3期)

11.3期2Q → 12.3期2Q (差異)

5,421億円 5,596億円 (+174億円)

個別: +285億円

ガス売上高 +231億円
・スライド影響 +172億円
・数量差等 +59億円

その他売上高 +54億円
・附帯収益 +33億円
・器具販売収益 +14億円

連結-個別: -111億円

大阪ガスメゾン -42億円
アーバネットス -26億円

12.3期第2四半期の経常利益差異(対11.3期)

11.3期2Q → 12.3期2Q (差異)

346億円 194億円 (-152億円)

個別: -142億円

連結-個別: -9億円

ガス粗利 -161億円
・スライト影響 -213億円
・数量差等 +51億円

費用増加 -20億円
・委託作業費増加 -7億円
・修繕費増加 -3億円
・租税課金増加 -3億円

その他事業利益 +15億円
・附帯利益 +7億円

営業外収支 +24億円
・受取配当金 +21億円

セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益		備考
	12.3期 2Q	11.3期 2Q	12.3期 2Q	11.3期 2Q	
ガス	4,182	3,943	-42	136	売上:ガス売上増 利益:時期ずれ差損の拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	821	822	128	127	
海外エネルギー	51	54	27	27	売上:不動産事業売上減等 利益:ケミカル事業利益増等
環境・非エネルギー	861	885	82	69	
消去又は全社	-320	-283	11	12	
連結	5,596	5,421	208	373	

セグメント利益=営業利益+持分法投資利益

セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益		備考
	12.3期 見通し	11.3期 実績	12.3期 見通し	11.3期 実績	
ガス	9,655	8,798	210	419	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	2,060	1,747	275	256	売上:電力・LNG販売売上増、 LPG販売単価増等 利益:電力利益増等
海外エネルギー	110	111	60	49	持分法投資利益増 (スペインIPP、北海油田)
環境・非エネルギー	1,755	1,854	175	156	売上:不動産事業売上減等 利益:ケミカル事業利益増等
消去又は全社	-670	-640	20	25	
連結	12,910	11,871	740	907	

セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

12.3期第2四半期月次ガス販売の推移

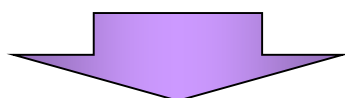
前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	累計	備考	
家庭用	101.5	96.2	100.7	94.7	99.4	116.9	100.4	気温影響	
商公医療用	102.4	94.8	103.7	97.4	91.7	90.4	95.8	節電対応の兆候	
工業用	103.3	107.5	102.5	102.6	106.4	102.1	104.0		
業 種 別	機械	87.9	95.7	99.3	95.6	99.0	96.9	95.8	震災後のサプライ チェーン途絶による 稼動減
	金属	104.6	106.4	100.6	104.0	111.4	105.0	105.3	震災後の東日本から の生産シフト・復興需 要による稼動増
	ガラス	114.3	115.8	105.9	110.0	109.7	114.7	111.6	
	食品	101.8	106.0	105.7	100.3	100.6	101.9	102.7	
	化学	101.6	110.9	98.5	96.2	98.1	94.6	99.8	
卸	101.0	108.3	100.8	94.0	102.5	97.6	100.7		
計	102.4	102.1	102.2	99.6	101.1	100.1	101.3		

家庭用ガス販売

12.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.2%	
気温影響	+1.3%	平均気温23.3度(対前期▲0.3度)
その他	-1.1%	
合計	+0.4%	



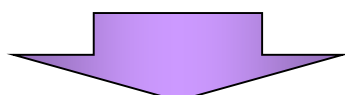
12.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを4百万m³上回った。
- 下期は、当初見通し通りで想定。
- 通期では、当初見通しを4百万m³上回り、対前期34百万m³減の2,242百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

12.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.8%	公用物件を中心とした新規稼動
気温影響等	-1.5%	夏場の低気温による冷房需要の減少
その他	-5.5%	お客さまの省エネルギー推進等の影響
合計	-4.2%	



12.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを1百万 m^3 上回った。
- 下期は、当初見通し通りで想定。
- 通期では、当初見通しを1百万 m^3 上回り、対前期71百万 m^3 減の1,553百万 m^3 と想定。

工業用ガス販売

12.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+3.2%	他燃料からのガス転換等
稼動増減等	+0.8%	お客さま設備の稼動増加等
合計	+4.0%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	175	95.8%
金属	531	105.3%
ガラス	170	111.6%
食品	258	102.7%
化学	580	99.8%

12.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを51百万m³上回った。
- 下期も、上期実績を踏まえた上ぶれを織り込み、通期では、当初の見通しを163百万m³上回り、対前期190百万m³増の4,330百万m³と想定。

年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- **原油価格**
 - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度下期の粗利益は7億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
 - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度下期の粗利益は12億円変動する可能性がある。
- **原料費**
 - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
 - 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間6億円変動する可能性がある。